（はじめにお読みください）

交換職-設定マニュアル（導入・設置編）

■本資料は、交換職を導入し設置する手順を記載しています。

改版履歴

版数	更新内容
1.0 版	新規作成
1.1 版	誤記修正
2.0 版	バージョン 1.3.0 に合わせて更新
2.1 版	バージョン 1.4.0 に合わせて更新
2.2 版	バージョン 1.5.0 に合わせて更新
2.3 版	交換職の電源を入れる前に Bluetooth アダプタを差し込む手順に変更
2.4 版	製品に同梱している Bluetooth アダプタの数を修正。その他、軽微な修正。
2.5 版	バージョン 1.7.0 に合わせて更新
2.6 版	バージョン 1.8.0 に合わせて更新

目次

【セキュリティ注意事項】

SIP ポートに対する攻撃が確認されています。ひかり電話ルータのルーティング設定等を変更して、外部から交換職にアクセスできる状態にしていると、第 3 者に電話回線を不正に使われてしまい、高額な通話料金を請求される恐れがあります。

本製品を利用するにあたり、外部から交換職にアクセスできる状態にして使用しないで下さい。

【警告】

誤った取り扱いをすると、人命にかかわる可能性のある事項や、負傷する可能性がある事項について以下に記載します。

- 風呂・シャワー室や、水のかかる場所に本製品を設置しないで下さい。
- 本製品のそばに、小さな金属類を置かないで下さい。本製品の中に入ると、発火の原因となります。
- 機器を接続する時は、接続する機器同士の電源プラグをコンセントから抜いて実施して下さい。
- 万が一、煙が出る、変なにおいがする等の異常が発生した場合は、LAN ケーブルと AC アダプタを抜いて、本製品の利用を中止して下さい。
- 万が一、本製品に水や異物が入ってしまった場合は、LAN ケーブルと AC アダプタを抜いて、本製品の利用を中止して下さい。
- 付属の AC アダプタ以外は使用しないで下さい。また、本製品の AC アダプタを他の機器で使用しないで下さい。
- AC アダプタは、風通しの悪い場所や、狭い場所に設置しないで下さい。
- 電源コードが傷んだ場合は、LAN ケーブルと AC アダプタを抜いて、本製品の利用を中止して下さい。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理にねじったりしないで下さい。
- 本製品を破損してしまった場合は、LAN ケーブルと AC アダプタを抜いて、本製品の利用を中止して下さい。
- 本製品をご利用の際は、たこ足配線にしないで下さい。
- 商用電源以外は使用しないで下さい。
- 本製品を分解したり、改造したりしないで下さい。
- ぬれた手で本製品をさわったり、 AC アダプタや LAN ケーブルの抜き差しをしないで下さい。

【注意】

誤った取り扱いをすると、負傷したり、物的損害が発生する可能性がある事項について以下に記載します。

- 火気のそばに設置しないで下さい。
- 温度の高い場所に設置しないで下さい。
- 湿度の高い場所に設置しないで下さい。
- 油とびや、湯気のあるところに設置しないで下さい。

- 不安定な場所に設置しないで下さい。

- 本製品を重ね置きしないで下さい。

- 結露が発生するため、温度変化の激しい場所には設置しないで下さい。

- 本製品に乗らないで下さい。

- 医療、軍事目的等、高い信頼性を要求されるシステムには利用しないで下さい。

- 本製品を分解しないで下さい。

- 本製品を利用中は発熱します。本製品に長時間触れないで下さい。

- AC アダプタは、コンセントに確実に差し込んで下さい。抜くときは、必ずプラグを持って抜いて下さい。

- AC アダプタとコンセントとの間のほこりは定期的に取り除いて下さい。

- 長時間使用しない場合は、LAN ケーブルと AC アダプタを抜いて下さい。

【お願い】

誤った取り扱いをすると、本製品の機能が低下、停止する可能性がある事項について以下に記載します。

- 落雷の恐れがあるときは、AC アダプタを抜いて、本製品の利用を控えて下さい。

- 本書に従って、設置、設定を実施して下さい。

- 本製品を電子レンジのそば等電磁波が発生するところや、磁気を帯びているところに設置しないで下さい。

- 本製品に虫が入らないようにご注意ください。

- 本製品の利用中は、LAN ケーブルや AC アダプタのコネクタ部分に触れないで下さい。

- 落としたり、強い衝撃を与えないで下さい。

- 本製品をお手入れする際は、必ず AC アダプタをコンセントから抜いて実施して下さい。

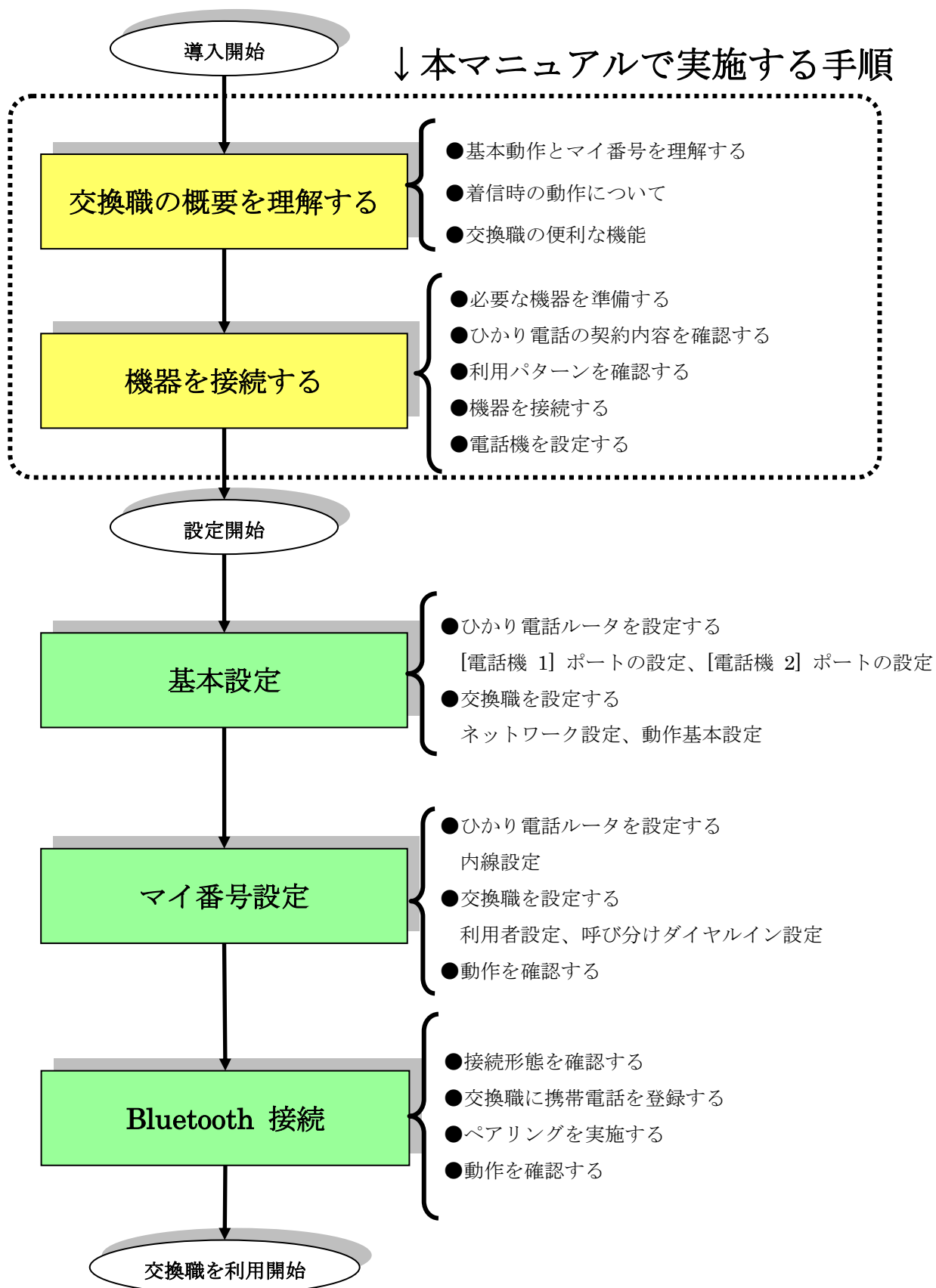- 本製品のお手入れには、ベンジン、シンナー等の有機溶剤や、アルコールは使用しないで下さい。

【仕様】

ハードウェア仕様	
項目	仕様
電源	AC100V 50Hz/60Hz （AC アダプタ）
電源ボタン	1 個
LED ランプ	1 個（LAN LED）
LAN ポート	1 ポート(RJ-45,10/100/1000Mbps Base-T Fast Ethernet)
USB ポート	前面：2 ポート 背面：2 ポート
Audio Line-out	1 ポート
消費電力	最大約 36W
動作温度	0℃ ～ 35℃
寸法	36mm×156mm×122mm
本体重量	約 600g

ソフトウェア仕様	
項目	仕様
Voip プロトコル	SIP
SIP 内線収容可能台数	20 台（内線番号 200～219 固定）
収容回線	ひかり電話 1 回線 2 チャネル、携帯電話回線 0～4 回線
呼び分けダイヤルイン機能	最大ダイヤルイン 5 番号、 5 ユーザまで、電話機 1 台で呼び分け可能
追いかけ転送機能	転送先を最大 5 番号設定可能
取り次ぎ転送機能	通話中の電話を任意の転送先に転送可能
留守番電話機能	最大 5 ユーザで別々の留守番電話を利用可能
通知メール機能	最大ダイヤルイン 5 番号、 5 ユーザまで、別々の条件で着信通知メールを利用可能
短縮ダイヤル機能	最大 70 番号を全ユーザ共通、800 番号をユーザ個別に利用可能
着信履歴機能	最大 30 件分の着信履歴を全ユーザ共通でラウンドロビンで利用
クリック TO コール機能	Web ブラウザで着信履歴を確認し、クリック一つで発信可能
同時転送可能数	最大 2 通話分同時に転送可能
Bluetooth 接続機能	Bluetooth 対応の携帯電話を最大 4 台ペアリング可能
FAX 検出機能	FAX を検出して FAX 機器を呼び出し可能
電話帳取り込み機能	携帯電話等の vCard 形式の電話帳を取り込み可能
迷惑電話ブロック機能	電話帳に登録のある番号だけ転送することが可能

1. はじめに

```
　　┌─────────┐
　　│  導入開始  │
　　└─────────┘
```
↓本マニュアルで実施する手順

交換職の概要を理解する
- ●基本動作とマイ番号を理解する
- ●着信時の動作について
- ●交換職の便利な機能

機器を接続する
- ●必要な機器を準備する
- ●ひかり電話の契約内容を確認する
- ●利用パターンを確認する
- ●機器を接続する
- ●電話機を設定する

```
　　┌─────────┐
　　│  設定開始  │
　　└─────────┘
```

基本設定
- ●ひかり電話ルータを設定する
  - ［電話機 1］ポートの設定、［電話機 2］ポートの設定
- ●交換職を設定する
  - ネットワーク設定、動作基本設定

マイ番号設定
- ●ひかり電話ルータを設定する
  - 内線設定
- ●交換職を設定する
  - 利用者設定、呼び分けダイヤルイン設定
- ●動作を確認する

Bluetooth 接続
- ●接続形態を確認する
- ●交換職に携帯電話を登録する
- ●ペアリングを実施する
- ●動作を確認する

```
　　┌─────────────┐
　　│  交換職を利用開始  │
　　└─────────────┘
```

NTT のひかり電話への加入について

交換職は NTT のひかり電話への加入を前提とした商品です。NTT 東日本、及び NTT 西日本のサービスである、「B フレッツ」もしくは、「フレッツ光ネクスト」の「ひかり電話」にご加入頂き、「ひかり電話ルータ」のレンタルを受けて下さい。

なお、交換職のご利用を開始される前に、ひかり電話ルータのファームウェアを最新のものに更新して下さい。
ひかり電話ルータの機種によって、交換職をご利用になれない場合があります。次の表に 2012/06/1 現在、弊社で確認がとれている機種について、適合機種、非適合機種を示します。

適合／非適合	機種名
適合	PR-400MI
	PR-S300SE
	RV-230SE
	RT-200NE
	RT-S300NE
	RT-S300HI
	AD-200NE
	AD-200SE
	RT-200KI ※1
非適合	WBC V110M

※1：利用可能な電話番号数は 4 つまで

なお、本マニュアルは、ひかり電話ルータ「RV-230SE」を参考にして設定画面、図、設定方法を記載しています。本文中の画像等で機種に依存する部分は、レンタルを受けたひかり電話ルータの機種に読み替えて下さい。
また、初期状態のひかり電話ルータを設定することを想定して記述しております。初期値を変更している場合は、変更後のものに読み替えて下さい。

2. 基本動作とマイ番号を理解する

●基本動作

```
会社の電話機     ➡    携帯電話に     ➡    留守番電話     ➡    通知メール
を呼び出す             転送する            で応答              を送信
```
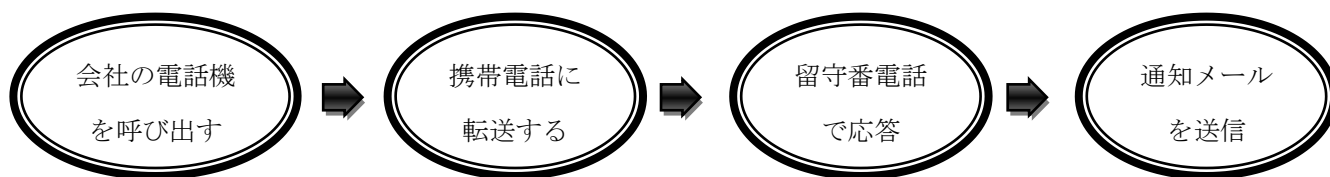
交換職は、電話がかかってくると上の流れで動作します。

この機能を最大 5 人が利用するために「マイ番号1」～「マイ番号5」が交換職に用意されています。

●「マイ番号」とは

マイ番号とは、利用者毎の設定を一纏まりにしたものです。

次の特徴があります。

・「ひかり電話の電話番号（マイナンバー）1 つ」につき「マイ番号 1 つ」を割り当てます。

・「マイ番号 1 つ」につき「転送先 1 つ」を設定できます。

・「マイ番号」毎に留守番電話機能が備わっています。
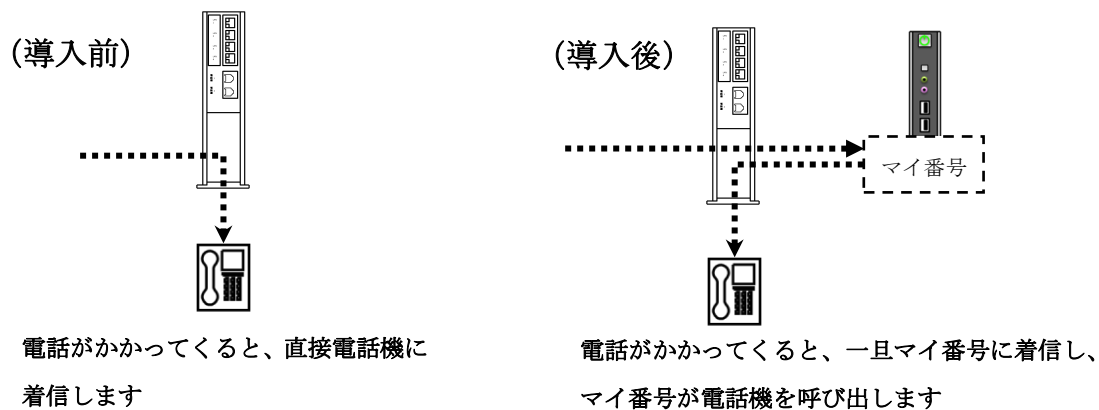
・「マイ番号」毎に電話帳を登録できます。

・最大 5 つの「マイ番号」を設定することができます。

ひかり電話ルータ

マイナンバー
・03-XXXX-1111

マイナンバー
・03-XXXX-2222

...

マイナンバー
・03-XXXX-5555

交換職

マイ番号「1」
・利用者名：A
・携帯電話番号：090-XXXX-1111
・不在設定
・留守電話 30 件 ・・・など

マイ番号「2」
・・・

...

マイ番号「5」
・・・
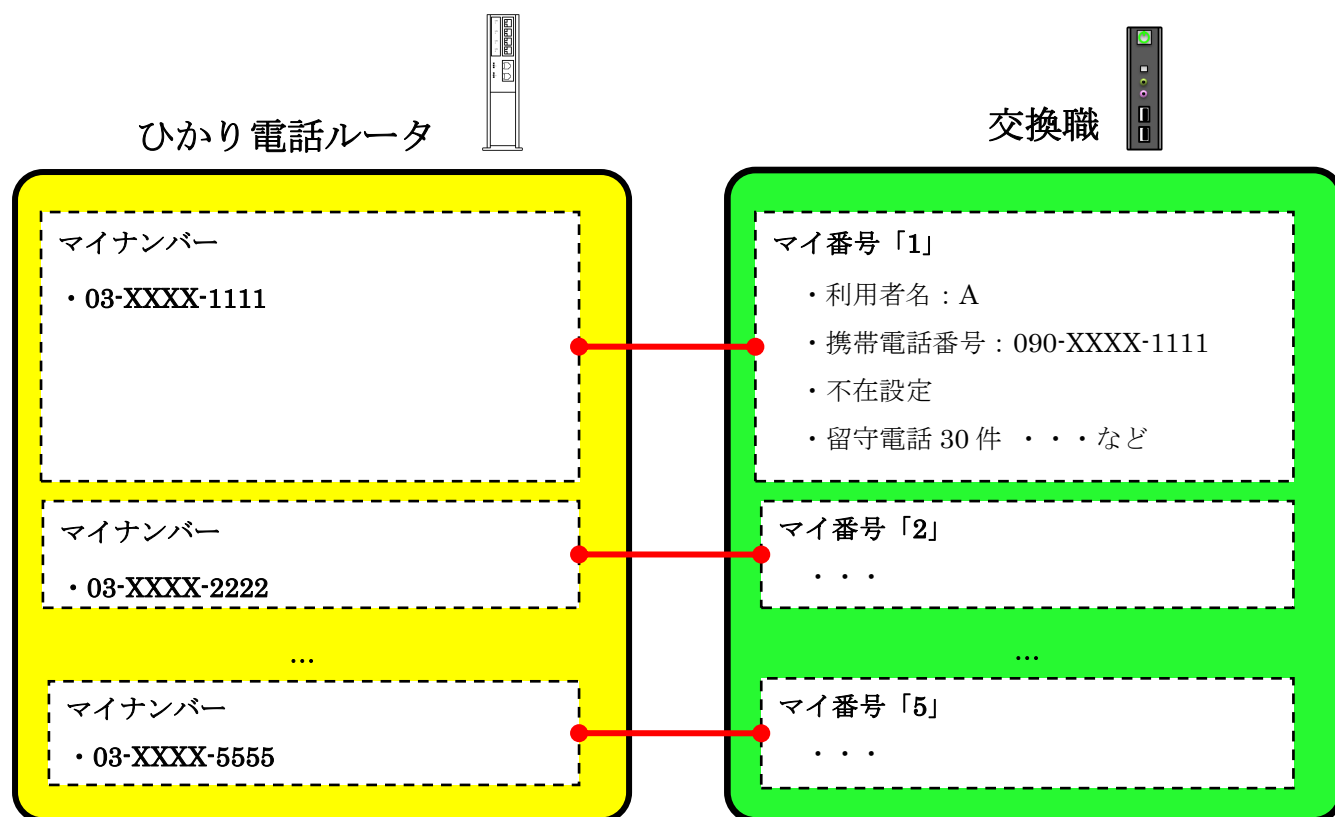
例えば、「03-XXXX-1111」に着信すると、交換職のマイ番号「1」が呼び出されます。

交換職は、マイ番号「1」の設定に従い、「090-XXXX-1111」に転送します。
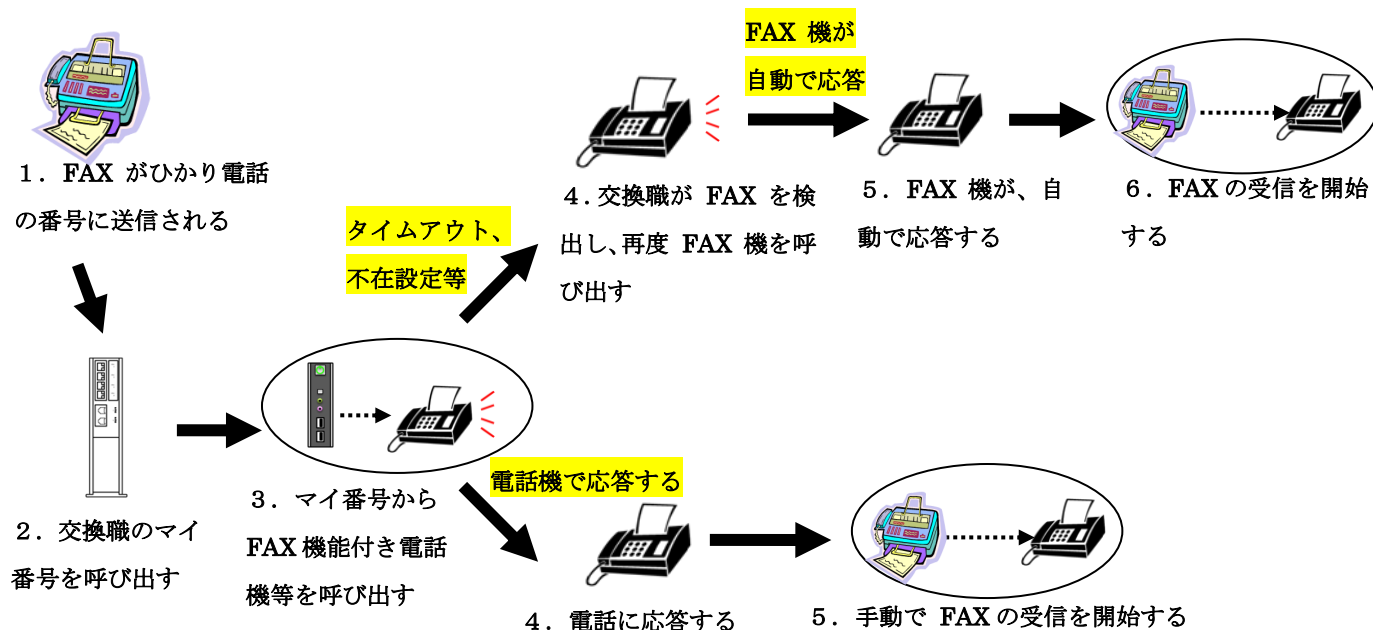
3. 着信時の動作について

3.1. 電話の着信時

●電話機の着信方法

（導入前）　電話がかかってくると、直接電話機に
着信します

（導入後）　電話がかかってくると、一旦マイ番号に着信し、
マイ番号が電話機を呼び出します

マイ番号

●導入後の着信から通知メール送信までの流れ

１．電話がひかり電話の
番号にかかってくる

２．交換職のマイ
番号を呼び出す

３．マイ番号から電
話機を呼び出す

タイムアウト、
不在設定等

４．転送先の携帯電話
を呼び出す

タイムアウト等

５．交換職のマイ番号毎の留
守番電話が応答する

切断後

６．マイ番号に設定されたアドレ
スに、通知メールを送信する

携帯電話で応答する

５．通話を開始する
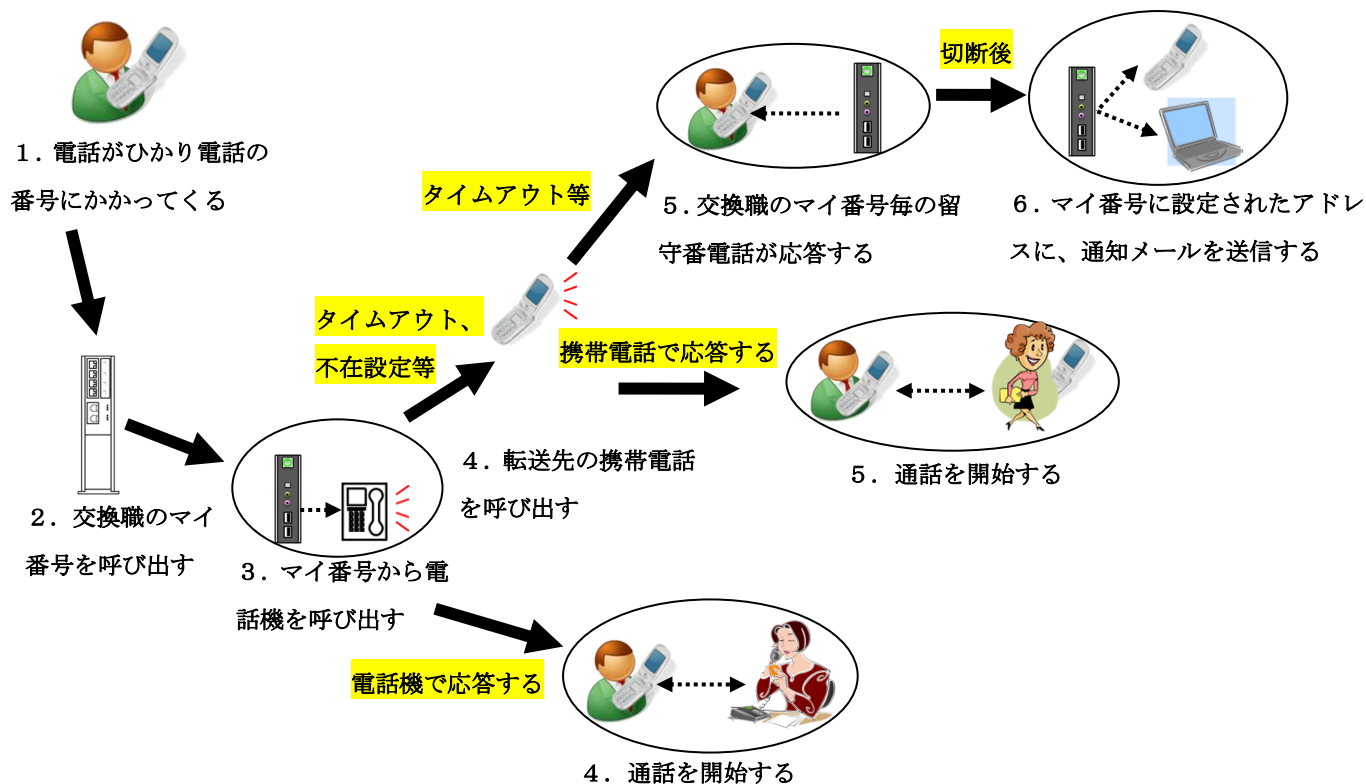
電話機で応答する

４．通話を開始する

3.2. FAX 受信時（FAX 検出機能を利用）

FAX を検出すると、転送をキャンセルして FAX 機器を呼び出します。

FAX は次のタイミングで検出します。

・「転送時の保留音を流すタイミング」

・「転送先の電話機で通話を開始するタイミング」

・「交換職の留守番電話が応答したタイミング」

また、転送される前に電話機で応答した場合、通常と同じように手動で FAX を受信します。転送される前に IP 内線で応答した場合は、IP 内線で「#9」を押し、FAX 機能付き電話機等に転送して FAX を受信します。

1．FAX がひかり電話の番号に送信される

2．交換職のマイ番号を呼び出す

3．マイ番号から FAX 機能付き電話機等を呼び出す

タイムアウト、不在設定等

4．交換職が FAX を検出し、再度 FAX 機を呼び出す

FAX 機が自動で応答

5．FAX 機が、自動で応答する

6．FAX の受信を開始する

電話機で応答する

4．電話に応答する

5．手動で FAX の受信を開始する

⚠ ご確認下さい

図は「転送時の保留音」を利用する場合の動作です。

「転送時の保留音」を利用しない場合、**FAX** が携帯電話へ転送されますが、「転送先で応答したタイミング」か「交換職の留守番電話が応答したタイミング」で **FAX** を検出し **FAX** 機を呼び出します。「転送時の保留音」を利用する場合でも、タイミングによって **FAX** の転送が実行される可能性があります。

3.3. FAX 受信時（[電話機 2] ポートを利用）

ひかり電話ルータの[電話機 2] ポートの発着信について、交換職は一切の動作に関わらないように、ひかり電話ルータを設定します。通常の手順で FAX を受信します。

１．FAX がひかり電話の番号に送信される

２．交換職を介さずに、[電話機 2] ポートのFAX 機器を呼び出す

FAX 機器が自動で応答

３．FAX 機器が応答する

４．FAX の受信を開始する
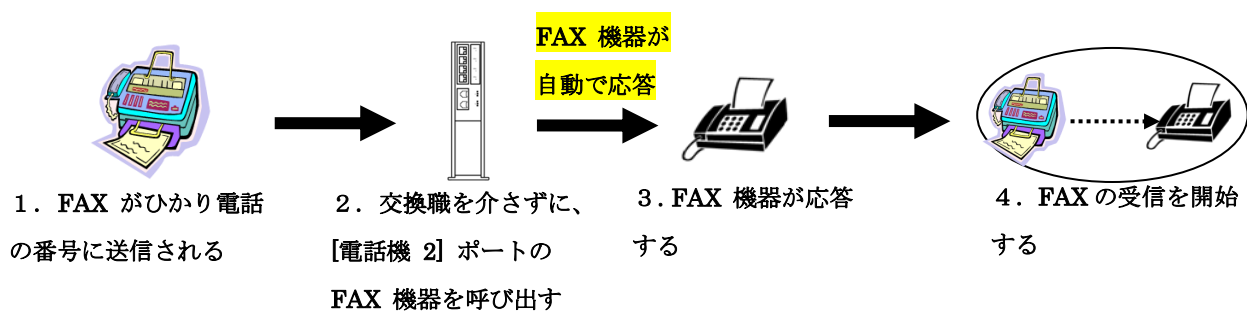
⚠ ご確認下さい

[電話機 2] ポートで FAX を受信する場合は、FAX 専用の電話番号が必要です。

4. 交換職の便利な機能

本製品の機能を記載します。

なお、ひかり電話の追加番号サービス「マイナンバー」で電話番号を複数取得すると、最大 5 ユーザが次の機能を利用できます。

携帯接続・無料通話機能

転送先の携帯電話へ電話をする時と、転送先の携帯電話から会社へ電話をかける時に、交換職に接続した携帯電話（最大 4 台まで）を利用することができる機能です。携帯電話の料金割引サービスを利用することで、転送時の通話料金や、会社への通話料金をお安くすることができます。

また、交換職に接続した携帯電話が通話料定額プランに加入している場合は、会社に置いてある電話機から任意の電話番号へ定額の通話料で発信する事ができます。

呼び分けダイヤルイン機能

通話を開始する前に、誰宛の電話か（どの番号に着信しているか）をお知らせする機能です。

マイ番号を利用する最大 5 人のユーザを呼び分けることができます。

ナンバーディスプレイ対応の電話機の場合、「着信先鳴り分け機能」を使って、着信音や液晶表示でお知らせします。

ナンバーディスプレイ非対応の電話機の場合、「着信先ガイダンス機能」を使って、受話器を上げた時に音声でお知らせします。

追いかけ転送機能

マイ番号に着信した電話を、携帯電話へ転送する機能です。「不在設定が有効」「電話機の呼び出しがタイムアウトする」等によって転送を開始します。マイ番号 1 つに対して、1 つの転送先を設定可能です。

FAX 検出機能

かかってきた電話が FAX だった場合、転送等の処理をキャンセルして FAX 機器を呼び出す機能です。1 つの電話番号で、携帯電話への転送と FAX を利用する場合に有効な機能です。

取り次ぎ転送機能

一旦電話にでた後、転送することができる機能です。

通話中に「*」を押したあと、電話番号や短縮番号をダイヤルすることで、任意の転送先に通話中の電話を転送することができます。

留守番電話機能

マイ番号に着信した電話に、交換職の留守番電話が応答する機能です。電話機の呼び出しや、転送先の携帯電話の呼び出しがタイムアウトすると、交換職の留守番電話が応答します。録音されたメッセージ等は、電話機や携帯電話から確認することができます。マイ番号毎に異なる応答メッセージを使用可能で、保存されるメッセージもマイ番号毎に管理されます。

通知メール機能

マイ番号に着信があったことをメールでユーザに知らせる機能です。設定した条件に従って、電話があったことを知らせる通知メールを送信することができます。マイ番号 1 つに対して、2 つの送信先を設定可能です。

電話帳取り込み機能

携帯電話などの電話帳（vCard 形式のもの）を、マイ番号毎に 800 件まで取り込むことができます。取り込んだ電話帳は、短縮ダイヤル機能、通知メール機能（発信者の名前の表示）、迷惑電話ブロック機能で利用されます。

短縮ダイヤル機能

マイ番号に電話をかけた後、「*」＋ 3 桁をダイヤルするだけで、次の短縮番号に登録した電話番号に発信する機能です。
・全ユーザ共通の短縮番号（特番やパソコンの Web ブラウザから登録、最大 70 件）
・各ユーザ個別の短縮番号（特番や電話帳取り込み機能で登録、マイ番号毎に最大 800 件）

迷惑電話ブロック機能

かかってきた電話の発信者番号が「電話帳（全ユーザ共通の短縮番号と、各ユーザ個別の短縮番号）」に登録されている場合だけ、転送させることができる機能です。

クリック TO コール機能

交換職の Web 設定画面「着信履歴」画面で、最大 30 件分の着信履歴の中から、コールバックしたい履歴の「発信」ボタンをクリックすることで、電話機でダイヤルすることなくコールバックすることができます。

IP 内線 接続機能

SIP 対応電話機を最大 20 台まで接続することができる機能です。内線番号は「200」〜「219」を固定で利用します。
※推奨アプリ：ageet 製 SIP ソフトフォン「AGEphone」
※推奨端末：ナカヨ通信機製 SIP 対応電話機「IP-24N-ST101A」

5. ひかり電話の契約内容を確認する

交換職を利用するためには、NTT 東日本、及び NTT 西日本のサービスである、「B フレッツ」もしくは、「フレッツ光ネクスト」の「ひかり電話サービス」にご加入頂き、「ひかり電話ルータ」のレンタルを受けて下さい。また、必要に応じて次のひかり電話の付加サービス等を契約して下さい。

・マイナンバー

「契約番号 ＋ 追加電話番号」で最大 5 つの電話番号を利用できるサービスです。

最大 5 ユーザにひかり電話の電話番号（ダイヤルイン番号）と、交換職のマイ番号を割り当て、各ユーザ個別に、携帯電話への転送、留守番電話、短縮ダイヤル、通知メールといった交換職の機能をご利用頂けます。

ただし、ひかり電話ルータの[電話機 2] ポートに機器を接続する場合、その機器が使用する電話番号は、交換職で利用できません。例えば、[電話機 2] ポートに FAX 専用機を接続する場合、FAX 用の電話番号は交換職の携帯電話へ転送する機能等を利用できません。

・ダブルチャネル

ひかり電話が同時に 2 回線分利用できるサービスです。

次に当てはまる場合は、このサービスへの加入が必須です。

> 転送用回線にひかり電話回線を利用する場合

> 逆転送機能を利用する（外出時にダイヤルイン番号から発信したい）場合

> 同時に 2 つの電話を転送する場合

> 通話と転送で 2 つの電話を同時に受けたい場合

・ナンバー・ディスプレイ

かけてきた相手の電話番号がわかるサービスです。

交換職は、通知メール、着信履歴、発信元ガイダンス、登録した携帯電話から交換職へのアクセスに利用しています。このサービスへの加入は必須です。

ⓘ ご確認下さい

発信元ガイダンスとは、転送先の携帯番号で応答した時に流れる「短縮番号 XXX から」「携帯電話から」「固定電話から」等のガイダンスです。

・インターネットサービスプロバイダ（ISP）との契約

ひかり電話でお使いのフレッツ回線からインターネットに接続するために必要です。

次に該当する場合、ISP との契約が必須です。

> B フレッツ、およびフレッツ光ネクストの回線を利用してインターネットに接続する場合

> 通知メール機能を利用する場合

> 交換職の時刻設定に、インターネット上に公開されている NTP サーバを利用する場合

6. 必要な機器を準備する

交換職に同梱の「付属品一覧」を参照し付属品が全てあることを確認した後、以降に記載する付属品以外の機器を準備して下さい。

電話機

ひかり電話ルータの［電話機 1］ポートに接続する、通話や FAX に利用する機器を準備して下さい。

- 「アナログ電話機」
- 「FAX 機能付き電話機」
- 「FAX 専用機」 …等

次に該当する場合、交換職の内線として通話用に利用する IP 電話機を 1 台以上準備して下さい。

- ・ひかり電話ルータの［電話機 1］ポートに FAX 専用の機器を接続する場合
- ・IP 電話機のみを利用する等の理由で、［電話機 1］ポートに何も接続しない場合
- ・会社で同時に 2 通話したい場合

> ⚠ **ご確認下さい**
>
> 会社で同時に 2 通話したい場合、ダブルチャネルサービスへの加入が必要です。

IP 電話機

交換職の内線として IP 電話機を利用する場合、SIP 対応の「IP 電話機」を準備して下さい。内線番号「200～219」を使って 20 台までご利用いただけます。

> ⚠ **ご注意下さい**
>
> 全ての IP 電話機との接続を保証するものではありません。

交換職に接続するスピーカ

「マイ番号 X に登録した携帯電話」から会社に電話をかけた時に、スピーカから音声で社員からの電話であることをお知らせします。アナログ電話機のナンバーディスプレイには「1」～「5」のマイ番号が表示されるため、スピーカ無しでは「社員からの着信」と「お客様からの着信」を区別することができません。

> ⚠ **ご確認下さい**
>
> 交換職に接続した携帯電話のバイブレーション等によって判別できる場合があります

交換職に接続する携帯電話（Bluetooth で常時接続）

Bluetooth のハンズフリー通話機能（HFP：ハンズフリープロファイル対応）に対応している携帯電話を用意して下さい。会社と転送先の携帯電話間の発着信回線として利用します。 携帯電話会社の料金割引サービスを利用することで、転送時の通話料金や、社員の携帯電話から会社への通話料金をお安くすることができます。

⚠ **ご注意下さい**

ハンズフリープロファイルを持つ全ての携帯電話機との通信を保証するものではありません。弊社で交換職との接続確認が取れている機種は次の通りです。
NTT docomo：P-07A、P902iS、F-12C、XperiaGX、N-01E、P-01F
SoftBank：936SH、001SH、820P、iPhone4、003Z
au：W63CA、Xperia acro、iPhone5

また、交換職に接続する携帯電話を 2 台ご用意して頂ければ、同時に 2 つの電話を転送することができます。
交換職に携帯電話を接続しなくても、ひかり電話のダブルチャネルサービスに加入すれば、転送用回線にひかり電話回線を利用し、転送することができます。

⚠ **ご注意下さい**

同時に 2 つの電話を転送する場合、ダブルチャネルサービスへの加入が必要です。

Bluetooth アダプタ

Bluetooth アダプタは、本製品に 1 つのみ付属しております。
交換職に 2 台の携帯電話を接続して、同時に 2 つの電話を転送したい場合は、Bluetooth アダプタを追加で 1 つ購入し、用意して下さい。

⚠ **ご注意下さい**

全ての Bluetooth アダプタでの動作を保証するものではありません。弊社で動作確認が取れているアダプタは、次の通りです。
プラネックスコミュニケーション株式会社：BT-MicroEDR2X、BT-Micro3E2X、BT-Micro4

7. 利用パターンを確認する

! ご確認下さい

次の表より、あなたの環境にあうパターンを確認して下さい

パターン	ひかり電話ルータの [電話機 1] ポートに 接続する機器	ひかり電話ルータの [電話機 2] ポートに 接続する機器	よくある利用例
1	通話専用の電話機	[電話機 2] ポートの発着信について、交換職は関係しません。必要に応じてお好きな機器を接続して下さい。また、何も接続しなくても問題ありません。 【重要】 [電話機 2] ポートに機器を接続して使用する場合、マイナンバーサービスで専用の電話番号を取得して、ご利用下さい。	ケース 1 　[電話機 1]ポート：通話用の電話機 　[電話機 2] ポート：FAX 専用機 ケース 2 　[電話機 1]ポート：通話用の電話機 　[電話機 2]ポート：機器なし
2	通話＋FAX 兼用の電話機		ケース 1 　[電話機 1]ポート：FAX 付き電話機 　[電話機 2]ポート：機器なし ケース 2 　[電話機 1]ポート：FAX 付き電話機 　[電話機 2]ポート：別回線用の電話機
3	FAX 専用の機器		ケース 1 　[電話機 1]ポート：FAX 専用機 　[電話機 2]ポート：機器なし ※通話用に IP 電話機を別途用意して利用
4	何も接続しない		ケース 1 　[電話機 1]ポート：機器なし 　[電話機 2]ポート：機器なし ※通話用に IP 電話機を別途用意して利用

8. 機器を接続する

次の図を確認し、機器を接続して下さい。※交換職本体の電源はまだ入れないで下さい。

機器接続図

必要に応じて HUB 等を利用し、空いている LAN ポートに接続します。

LAN ケーブル

電話機コード

ご利用のパターンよって機器を接続して下さい。

[電話機 2] ポートは FAX 機器等を必要に応じて接続して下さい。

ひかり電話ルータ
（背面）

交換職（背面）

AC アダプタ

IP 電話機の接続

・「SIP 対応 IP 電話機」
・「SIP ソフトフォン」 など
また、必要に応じて無線 LAN アクセスポイント等を接続して下さい

※IP 電話関連の機器は、必要に応じて接続して下さい。IP 電話機は最大 5 台まで接続可能です。

スピーカの接続

スピーカ用コード

交換職
（前面）

※スピーカを緑色のジャックに接続し、マイ番号に登録した携帯電話から着信すると、「マイ番号 X 番から」というガイダンスが流れるようになります。

発着信回線用の携帯電話の接続

③ ④

①〜④の空いている USB ポートに差し込む。

Bluetooth アダプタ
0〜4 個

Bluetooth 接続

① ②

交換職
（前面）

交換職
（背面）

充電ケーブル

Bluetooth 対応携帯
0〜4 台

※交換職と発着信回線用の携帯電話の Bluetooth 接続（ペアリング）は後で実施します。Bluetooth アダプタの交換職への挿入、携帯電話の電源投入と充電ケーブルの接続のみ実施して下さい。

9. 電話機を設定する

●[電話機 1] ポートに接続する電話機

交換職が転送を開始する前に、FAX や留守番電話が自動で応答しないように設定します。あなたのパターンにあう項目を確認し、設定して下さい。

パターン	ひかり電話ルータの [電話機 1] ポートに 接続する機器	[電話機 1] ポートの機器の設定方法
1	通話専用の電話機	・留守番電話の機能を OFF に設定する。 ・FAX 機能がある場合は、FAX の自動応答機能を OFF に設定する。
2	通話＋FAX 兼用の電話機	・「FAX や留守番電話が自動で応答するタイミング」を、「転送されるまで会社の電話機を呼び出してほしい時間」より、少し長めの時間に設定する（※1）。
3	FAX 専用の機器	・FAX の自動応答までの時間をなるべく短くする。
4	何も接続しない	―

※1：電話機を呼び出している時間は、交換職の「利用者設定」で「電話機の呼び出し」に設定する時間になります。初期値は「17 秒」です。（「交換職-設定マニュアル（マイ番号設定編）」参照）

転送先の電話機（携帯電話等）

転送先の電話機（携帯電話等）の留守番電話が起動するまでの時間を「携帯電話の呼び出し」より少し長い時間に設定するか、OFF に設定して下さい。

「携帯電話の呼び出し」は、交換職の設定値で、初期値は「20 秒」です。設定値は変更可能です。

IP 電話機

IP 電話機を利用する場合、SIP 電話機に次の情報を設定して下さい。

> SIP サーバの IP アドレス：192.168.1.254（交換職の IP アドレス）
> SIP サーバのポート番号：5060
> ユーザ名：200 ～ 219（内線番号と同じ）
> パスワード：200 ～ 219（内線番号と同じ）

以上

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA   02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it.   By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.   This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it.   (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.)   You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price.   Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have.   You must make sure that they, too, receive or can get the source code.   And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software.   If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents.   We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary.   To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License.   The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language.   (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope.   The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole.   If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works.   But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code.   (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it.   For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable.   However, as a special exception, the source code distributed need not

15

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License.   Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary.   Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program
`Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs.   If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library.   If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA   02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL.   It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it.   By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price.   Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights.   These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you.   You must make sure that they, too, receive or can get the source code.   If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it.   And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library.   Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program.   We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder.   Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License.   This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License.   We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library.   The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom.   The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License.   It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs.   These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries.   However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard.   To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library.   A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries.   In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software.   For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.   Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License").   Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms.   A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language.   (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it.   For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope.   The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it).   Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

17

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application.   Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole.   If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works.   But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library.   To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License.   (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.)   Do not make any other change in these notices.
Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library".   Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library".   The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library.   The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work.   (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License.   You must supply a copy of this License.   If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License.   Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library.   (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library.   A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it.   However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system.   Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

18

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities.   This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License.   Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License.   However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it.   However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works.   These actions are prohibited by law if you do not accept this License.   Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions.   You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License.   If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all.   For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices.   Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded.   In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number.   If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation.   If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission.   For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this.   Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.   THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU.   SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change.   You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library.   It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year>   <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.   See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary.   Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

LICENSE ISSUES
==============

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

```
/* ====================================================================
 * Copyright (c) 1998-2003 The OpenSSL Project.   All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
 *
 * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 *
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the
 * distribution.
 *
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
 *
 * 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission,
 * please contact openssl-core@openssl.org.
 *
 * 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
 *
 * 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED
 * WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.   IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS
 * CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,
 * PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY
 * OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS
 * SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
 * ====================================================================
 *
 * This product includes cryptographic software written by Eric Young * (eay@cryptsoft.com).
 * This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 */
```

Original SSLeay License

```
/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to.   The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4,
 * RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code.   The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson
 * (tjh@cryptsoft.com).
 *
 * Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
 * If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
 * This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
 *
 * 1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 *
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the
 *    distribution.
 *
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
 *    "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
 *    The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
 *
 * 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
 *    "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED
 * WARRANTIES
 * OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE   DISCLAIMED.   IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR
 * ANY
 * DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE
 * GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN
 * CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
 * OF
 * THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
 *
 * The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed.   i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution
 * licence
 * [including the GNU Public Licence.]
 */
```

Copyright (C) 1994-2004 The XFree86 Project, Inc. All Rights Reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE XFREE86 PROJECT BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the XFree86 Project shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the XFree86 Project.

■交換職に含まれる GPL/LGPL ライセンスのソフトウェアについて

1)　　GPL/LGPL ライセンスのソフトウェアについて

交換職には GNU General Public License（GPL）または GNU Lesser General Public License（LGPL）ライセンスに従うソフトウェアが含まれています。これらソフトウェアのソースコードの入手を
ご希望の方は実費(2000 円)にて承ります。ご希望の方は、製品型番、シリアル番号、販売店名を明記の上、email にて gpl-distibution@chatvoice.jp までご連絡ください。
GPL、LGPL については、本文書の当該条項をご参照ください。

なお、ソースコードの内容等についてのご質問にはお答えいたしかねますので、予めご了承ください。

2)　　第三者ソフトウェアについて
交換職には次のライセンスに基づくソフトウェアが含まれています。これらソフトウェアの使用許諾条件については、本文書の当該条項をご参照ください。

・OpenSSL License（OpenSSL.txt）
・XFree86 License（XFree86.txt）